

# 観賞時における鉢花の管理法

## 1. 試験のねらい

観賞時の温度、照度、水管理が鉢花の品質に及ぼす影響を調査し、消費者向けの管理マニュアルを作成する。

## 2. 試験方法

- (1) 試験にはシクラメン等 6種類の鉢花を供した(表 - 1)。
- (2) 温度の影響については、冬期出荷の鉢花を対象とし、20、10、5の一定条件下で観賞性を調査した。なお、この時の照度は700~1000lx、日長は12時間、光源は蛍光灯とした。
- (3) 耐陰性については、700lx(細かい視作業に必要な照度)、400lx(通常の視作業に必要な照度)、100lx(喫茶室、休養室等に必要な照度)の一定条件下で観賞性を調査した。なお、この時の温度は20、日長は12時間、光源は蛍光灯とした。
- (4) 耐湿性については、培地表面乾燥時株元手灌水、ひも底面給水、受け皿常時湛水の区を設け、観賞性を調査した。なお、この時の温度は20、照度は700~1000lx、日長は12時間、光源は蛍光灯とした。

## 3. 試験結果および考察

- (1) シクラメンの観賞時の温度については、20~10では観賞開始30日後で開花数が少なくなり、積算黄化葉数が多くなるため、5の低温管理が望ましい。照度については、400lx以下では積算黄化葉数が多くなるため、700lx以上が望ましい。水管理については受け皿常時湛水では積算黄化葉数が多くなるため、不適であり、株元手灌水とひも底面給水では積算黄化葉数に差が認められないため、給水管理の回数を考慮するとひも底面給水が望ましい(表 - 1、図 - 1、2、3)。
- (2) プリムラ・マラコイデスについては、観賞時の温度は5、照度は700lx以上が望ましく、水管理は株元手灌水では乾燥時に黄化葉が発生しやすいため、ひも底面給水が望ましい(表 - 1)。
- (3) ハイドランジアについては、照度が100lxでも1ヶ月程度の観賞期間であれば影響が少ない。水管理は受け皿常時湛水では積算黄化葉数が多くなり、株元手灌水とひも底面給水では給水管理の回数を考慮するとひも底面給水が望ましい(表 - 1)。
- (4) クジャクサボテンについては、照度が700lx以下では観賞開始時の小花蕾が開花せず枯死するため、照度不足である。水管理は3つの方法で観賞期間に差が認められなかった(表 - 1)。
- (5) 木立ペゴニアについては、照度が400lx以下では落花するため、照度不足である。水管理は受け皿常時湛水では落花及び黄化葉が多く発生するため、不適である(表 - 1)。
- (6) ハイビスカスについては、照度が700lx以下では開花してくる花の花弁が退色するため、照度不足である。水管理は3つの方法で観賞期間に差が認められなかった(表 - 1)。

## 4. 成果の要約

6種類の鉢花を対象に、観賞時の温度、照度、水管理が品質に及ぼす影響について調査し、それぞれの鉢花の観賞時の管理方法について明らかにした。

(担当者 花き研究室 高崎正、小玉雅晴)

表 - 1 各種鉢花の管理方法

鉢花の種類	温度			照度			水管理		
	20	10	5	700 lx	400 lx	100 lx	株元手灌水	底面給水	受け皿湛水
シクラメン	×				×	×			×
プリムラ・マロイテス	×						×		×
ハイドランジア									×
クジャサボテン				×	×	×			
木立ハゴニア					×	×			×
ハビスカス				×	×	×			

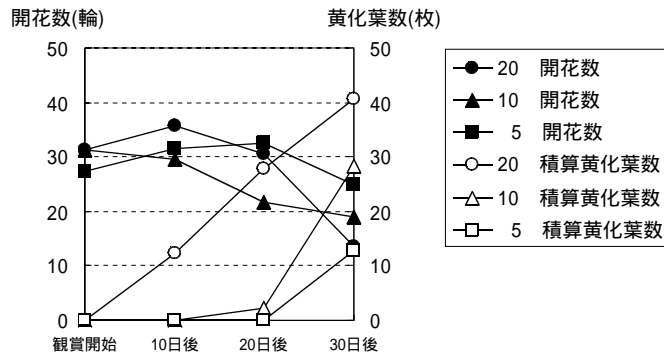


図 - 1 観賞時の温度の違いによるシクラメンの開花数及び積算黄化葉数

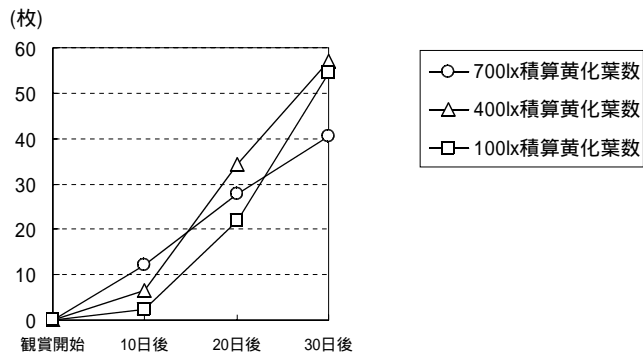


図 - 2 観賞時の照度の違いによるシクラメンの積算黄化葉数

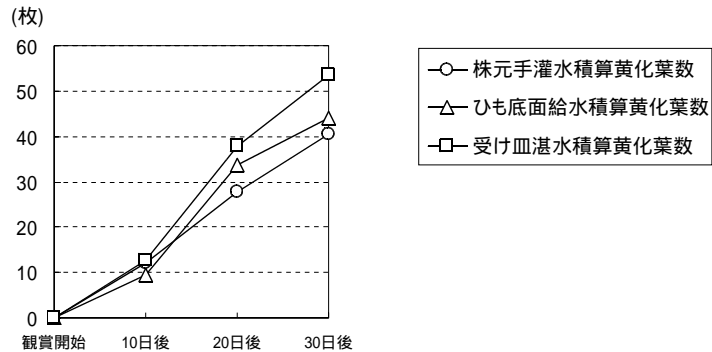


図 - 3 観賞時の水管理の違いによるシクラメンの積算黄化葉数